

なにわ

シリーズ
288
巻

人物誌



喜劇王・渋谷天外①

地域史研究者
三善貞司

初代渋谷天外の丁稚時代

弁当を届けた後は芝居見物
鶴屋団十郎に強引に弟子入り

敗戦後、焼け野原となった大阪で、「松竹新喜劇」を結成し、日本の喜劇王と称えられた二代渋谷天外を中心に紹介します。

「笑いのかけには涙あり」とよく言われますが、まさに天外父子の生涯はそのとおりでした。しかしこの笑いと涙が戦争に負けて絶望し、やけくそになっていた人たちに、どれほどの生きる勇氣と喜びを与えたことか、あの時代を体験された方なら、かならず共感されると思います。

二代天外の父親初代渋谷天外は、明治14年（1881）和歌山県に生まれました。本名渋谷博喜智（異説・博吉）。生後間もなく渋谷家にもらわれたそうで、「ほんまの親はわいも知らん」と、ご本人が語っています。

養家も貧しくて小学校にやってももらえず、幼いころから丁稚奉公させられます。愛想と気前はよくかわいがられますが、とにかく尻が軽い。すぐに仕事が嫌になってとびだす。

呉服屋・染物屋・菓子屋・豆腐屋・印刷屋・食物屋など十数ヶ所を転々としたあげく、大きなかまぼこ屋に拾われますが、命じられたのは赤ん坊の嬢さんの子守り、いくらあやしてもキヤーキヤー泣かれるのに腹を立て、墨で顔中にひげを書いてさまあみる…と逃げ出しました。

鼻つまみの博喜智がようやく落ち着いたので、道頓堀で仕出屋（料理配達業）をやっている「魚安」です。魚安は道頓堀から千日前にかけての芝居小屋に、手広く弁当を運んで繁昌しています。博喜智が気に入ったのはこれです。弁当は重いが届けてしまえば、あとはタダで芝居がのぞけるのです。

「こら、ヒロ公。遅いやないか。いつまでかかっとなる。道草食わんとはよ帰ってこい」主人は青筋たてて叱りますが平気の平左、蛙の面に水と受け流し、しっかと芝居見物をするうち、自分も舞台上に上がりたくなります。

ある日彼は、千日前の「改良座」に弁当を届けたあと、思いきってスーパースター鶴屋団十郎のいる楽屋を訪ねました。団十郎は大阪最後の仁輪加師（即興のこっけい寸劇。色町で生まれた茶番狂言で、だじゃれをとばし仕草で人を笑わせ、かならず落ちをつけてしめくくる。江戸時代の後半、上方で大流行）といわれた。パントタイムの名人です。

「わいを弟子にしておくんなはれ。そこらの連中よりよっぽど役にたちませ。ほら、テンツクツクテンツクツウ…」

と、いきなり猿まわしの真似をしましたから、そこらの連中が怒りました。

「お前、魚安の丁稚やないか。お師匠はんはいそがしい。はよ出ていけ」

「なんやその眼は。反抗する気か。おい、つまみだせ」

若い弟子たちがつまみだそうとすると、博喜智は手足をバタバタさせながら、こう叫びます。

「あんさん、わいはあんさんの芝居見すぎたさかい、店、クビになりましてん。あんさん、責任とっておくんははれ」

ジロリとにらんだ団十郎は、さすがに仁輪加師です。大声で笑いながら、

「妙な屁理屈ぬかす子や。ひよっとしたらほんまに役にたつかもわからんで。やい、ふきそうじでもせえ」

と、手もとに置いてくれました。明治33年（1900）のできごとで、団十郎55歳、博喜智19歳のときの話です。

1年経って鶴屋団治の芸名をつけてもらった博喜智は舞台に立ちますが、仲間たちからひどく嫌われました。ここでこうするときめていた約束ごとを守らず、勝手にアドリブを連発するのでついていけないのです。

「あのガキ、自分ばかり目立ちやがって」

「いっぺんお灸すえたらうや」

となつて、わざと出るときに出なかったり、大事な小道具をかくして立往生させようとしてますが、団治はそのたびにあざやかなアドリブで切り抜ける。いや、客席は爆笑し、かえって大きな拍手をあびるありさまです。

こんな団治にたったひとりだけ、無二の親友ができました。団十郎もかわいがっていた人柄の好い曾我廻家箱王という男です。

「なあ団治。わい、前から新しい芝居やりたい思うて、相棒探してたんや。ふたりで一緒にやれへんか」

ある日、いつも笑顔の箱王が眉をキリリとあげて、こう言いました。

明治40年（1907）団治と箱王は、団十郎一座から離れ、「新生喜劇」と名乗って京都の「朝日座」で旗上興行を打ちます。演題は「周章者忠臣蔵」と「黄金の山」で、いずれも団十郎流仁輪加の焼き直しですが、二人の迷演に観客は大爆笑、腹をかかえて笑いこぼれます。

朝日座の経営者はあの白井松次郎・大谷武次郎兄弟（演劇・映画界のリーダー「松竹」の創業者。本連載120〜121参照）です。

「こら、いける。松竹があと押ししたるか」

と声をかけてくれました。

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株) ファッションビジネス・御堂筋新聞